

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

**○記入方法**

[取り組みの事実]  
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]  
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]  
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)  
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

**○用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

**○評価シートの説明**

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゆうあいホーム はな畑
(ユニット名)	2棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市大湊町1523-1
記入者名 (管理者)	久保川 千鶴
記入日	平成 19年 9月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	はな畑の理念は「もっとやさしく、もっと温かく」である。今後も、散歩や商店への買い物等にて、利用者と共に理念を伝えていきたい。	○	活動範囲を広げていき、もっと地域の方に理解していただけるように取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等にて、職員全員で「もっとやさしく、もっと温かく」を実践する様心がけている。	○	理念の共有、実践ができるよう、もっと活かし合える機会を増やしていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には理解されていると思うが、地域の方々には、挨拶まわりやパンフレットの配布活動しかできておらず、不十分である。	○	地域の方々にもっと理解してもらえよう、新聞やパンフレット配布の拡大や当事業所主催行事等への参加を呼びかけを行なっていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と近隣の公園への散歩時や、地域の方のサークル活動等見学時に、ホームに気軽に立ち寄ってもらえるように声かけを行っている。		今後も近隣への呼びかけを継続し、付き合いを深めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の入会と、消防団の入団、夏祭り、地区清掃に参加し、交流に努めている。		子供安全パトロール等地域活動で参加できるものを見つけ出し、参加できる機会を増やしていけるように努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者や、認知症の方々の家族に、協力できる事があればと自治会役員さん等に話をしているが、まだ実現していない。</p>	○	<p>実現に向けて、努力していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価について会議等で実施内容・未実施内容ひとつひとつ話し合いは行っている。</p>	○	<p>今後は、評価を活かし、前向きに改善できるよう取り組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議時の意見等を、前向きに検討し、実践に取り組んでいる。</p>		<p>意見交換にて提案があったものを実現している。具体的な例としては、小学校とコンタクトをとり、小中学生を通学路等で見守る「見守り隊」というボランティアを始めた。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催の研修会等には積極的参加している。</p>	○	<p>市主催の講習会等にて、コミュニケーションを計り、行き来できるようにしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用したことはない。</p>	○	<p>勉強会に参加していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>更衣や入浴時など、身体チェックを行い、見過ごさないよう心がけている。</p>		<p>固定勤務にせず、全職員が利用者さんと接することで、利用者さんの声や、様子の変化に注意し見過ごさないよう、今後も取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時や家族面会を利用し、説明の機会をつくっている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見等がでた場合は、すぐに職員間で話し合いを行っているが、外部へ話せる機会は少ない。</p>	<p>佐世保市グループ協議会等主催の研修会に参加し、職員のレベルアップをはかったり、協議会の相談窓口を活用し外部へ話せる機会をつくっていききたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時や電話にて、現状報告等行っている。</p>	<p>○ 職員の異動に関しては、早く伝えられるように努めていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会開催や意見箱の設置を行い、不満・苦情等があった場合は、ただちに対処するようにしている。</p>	<p>○ 家族面会時にコミュニケーションをはかりながら、今後も継続していききたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者とは、月一回のはな畑会議時に聞く機会を設け、運営者とは、6ヶ月に1回の面談にて話す機会をつくっている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の協力、話し合いにて行っている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動、離職に伴う利用者さんの不安を和らげる為、声かけ等心配りをしている。</p>	<p>異動は最小限にしていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修を始めた。</p>	<p>もっと様々な研修会に参加できるよう調整していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者が佐世保市グループ協議会会長でもあり、グループホーム協議会を通し、他ホームの見学や研修を行っている。</p>	<p>交流に努め、ネットワークづくりを強化していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務体制の改善や、職場外での交流会の開催に努めている。</p>	<p>職場外で、交流会の回数を増やしていくようにする。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員の状況は把握しており、給与や役職の昇格などにて対応している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>努めている。</p>	<p>これからも要望に答えられるように、コミュニケーションを計れるように努力していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時に、必ず話をする機会を設けている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るよう心がけている。		今後も利用者・家族とのコミュニケーションをはかっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	努めている。		入所希望者に関しては、認知症通所介護(介護予防も含む) 空床の場合、短期利用共同利用生活介護(介護予防も含む)をすすめ環境になじめるよう努めている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、風習や郷土料理等学ばせてもらっている。		今後も継続していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や面会等にて家族さんとの交流を計り、一緒に考え、支えていく努力をしている。		共に考え、共に支えていく努力を続けていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族の関係を理解し、私達職員がコミュニケーションを計り、利用者・家族の方がより良い関係でいられるように支援していきたい。		家族の方々にホームへ足を運んでもらえるように行事参加・病院受診の協力要請をおこなっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分に対応できていない。		家族さんとの協力をみつにし、関係が途切れないよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努力しているが、十分ではない。		席移動や居室移動等にて、工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院されている場合は、御見舞や、家族さんへの連絡を通し関わりを継続している。		今後も継続していきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は、聞き入れるように努力しているが、まだまだ不十分である。	○	希望や要望を、聞き入れていく努力をしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報が少ないため把握できていない。		本人・家族・知人の方々からもっと情報収集していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会話や様子観察を勤務日誌に記入し、職員全員で把握できるよう努めている。		今後も、継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族とスタッフ間で話し合いをもとに作成している。必要があれば主治医・医療関係者との意見交換も行い、意見を取り入れている。	○	もっと話し合う機会をつくり、利用者に即した介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しはできている。	○	利用者の状況に応じて頻回に話し合う機会をつくり、もっと利用者に即した介護計画を作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録は行っているが、介護計画の見直しは十分ではない。	○	記録内容を活用し、ケアを聞くよう努力していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護に関して、本人・家族さんの希望・要望をなるべく対応できるようにしている。		今後も個別に対応できるよう努力していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	十分ではない。	○	交流をもつ努力をしている。消防署、消防団との交流や小学校の訪問等を始めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所までは十分ではないが、同法人との交流は行っている。	○	グループホーム協議会などを通し、他事業所との交流を計っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在ケースがないのでできていない。	○	問題が発生すれば、検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はいるが、本人・家族の希望があれば、入所前のかかりつけ医との関係を大切にしている。		今後も継続していく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医療機関に協力医療機関登録してもらい、必要性に応じ気軽に相談できる繋がりを築いている。		今後も協力医療機関と、密な連携を継続していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療力医療機関・訪問看護・同法人の看護職員と電話等で気軽に相談できる関係をもっている。		今後も密な連携を継続していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の面会で、医師や看護師と、少しでも話が出来るよう心がけている。		継続していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・協力医等とともに方針を共有している。	○	話し合いの機会を設けていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関との連携を重点において取り組んでいる。	○	今後も医療機関との連携を強化していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換は行っている。相手が望む情報提供に心掛けている。	○	理念である「もっとやさしく、もっと温かく」を念頭において、気配り、心配りにて対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての声かけや対応には、常に注意をはらっている。個人のケース記録を利用し、記録は他利用者にはわからないようにしている。	○ いつでも慣れあいにならないよう、利用者尊厳の意識を持ち、対応していく。個人情報の大切さも共に意識をもっていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ会話をし、利用者の気持ちがわかるよう心がけているも、すべてを1人1人に合わせることは難しい事もある。	○ すべての利用者とゆっくり会話する時間をもてるよう考え、どうすれば全ての利用者のニーズに答えられるかを職員で考えていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・入浴等本人の希望を聞き実行しているが、その日をどのように過ごしたいかの希望にそえない時もある。	○ 利用者の一日一日を大切に、その日何をしたいか聞いていき、支援できるよう考えていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出が困難な方はホームで散髪している。起床したら鏡を見てもらい、出来ない人は髪を整えるように支援している。何を着るかも決めてもらっている。	○ 訪問理容利用も、今後検討していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みは聞いている。本人が嫌いな物は出さないようにしている。一緒に配膳・盛り付け・片付けを行っている。	○ 今後も、継続して、一人ひとりの力を活かせるように声かけをしながら支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時飲み物は希望を聞いたりしているも、おやつ自体はみんな同じになっている。	○ おやつでも好みに合わせる支援を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁の多い人でも、日勤帯はトイレ誘導等を増やし、布パンツの使用に心がけている。	○	トイレで排泄するということを意識してもらい、尿意を伝えてもらえるように支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴するかどうかは、本人の希望を聞いている。現在、入浴時間は午後になっているも、要望があれば、他の時間でも入浴できるようにしている。	○	現在は、他の時間帯の希望はないが、職員の方から希望時間を聞くこともなかった。希望時間も聞いていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入床時間は本人に任せている。空調は、職員で管理し、気持ちよく眠れるよう支援している。	○	空調管理も希望があれば本人に任せる等快適な眠りがとれるように支援していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションをはじめ、庭の木・花への水かけやドライブ・買い物などにて気晴らしをしてもらっている。	○	一人ひとりと話し合い、その人に合った役割をつくり、それが楽しみになるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族との話し合いにて、お小遣い等所持してもらっている。	○	本人の希望に任せており、買い物ツアー等計画し、お小遣いを持ったり、使えるような支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食・ドライブ・散歩等を行っている。しかし、一人ひとりのその日の希望にそった支援は十分でない。	○	庭に出たり、他の楽しみを一緒に見つけ、一緒に楽しむようにしていく。希望に沿って外出できるよう努めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	結婚式・演奏会等、家族と共に掛けられる利用者の方もおられるが、まだ不十分である。	○	一人ひとりが、行きたい場所へ出掛けられるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。	○	レクリエーションで絵手紙をし、時々家族や大切な人に、自分が書いたハガキを出してもらい、楽しみにしていく支援をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食事の時間帯であれば、一緒に食事をしてもらったり、居室でゆっくり過ごしてもらったりしている。気軽に来所してもらえよう努めている。	○	気軽に来所してもらっていると思うので、今のホームの雰囲気大切にしたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての勉強会を催している。	○	出来る限り、減らしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門が道路に面しており、利用者が出て行かれると危険性があるため、家族や本人の同意の元、鍵をしている。	○	鍵をかけないという自由のためのケアも必要だが、利用者を守るのが一番だと思うため、鍵をどうしていったらいいかは、本人や家族と話し合っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけや定期的な訪室等をしなが、様子を見守っている。	○	今後も見守り、様子観察の徹底に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人・家族と話し合い、必要性があれば、ホームで預かるようにしている。	○	今後も、一人ひとりの状況に応じて、保管方法を検討するように努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状態を見ながら、危険な事や注意する事等、職員で話し合い、事故防止に取り組んでいる。	○	今後は、ヒヤリハットの活用や事故防止マニュアル作成等に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得、応急手当や初期対応の訓練を受けている。	○	今後も、積極的に勉強会等に参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域の消防団との合同訓練にて、災害に備えている。	○	近所の方とのつながりを深め、協力してもらえよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態を見ながら家族に説明をしている。利用者にとって、過ごしやすい環境づくりに努力している。	○	家族との話し合いは、常にもっていききたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの異変でも早く発見できるよう、日頃より利用者の状況把握のため一日3回の検温を行っている。発見時はすぐに申し送りを行い、情報共有に努め、病院・家族等への連携をはかっている。	○	今後も緊急時マニュアルを徹底し、こまめな連携をはかっていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人のケース記録につづり、変更等は申し送りノート等で説明している。全職員がすべて把握しているとは言えない。	○	お薬説明書を、職員全員が把握できるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給表をつくり、水分を十分とるよう支援している。レクに軽体操を取り入れたり、声かけして運動してもらっている。	○	軽体操や運動が毎日続けられるよう支援する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立した人には、毎食後声かけにて口腔ケアを促している。介助が必要な人も毎食後、口腔ケアを施行している。夜間は、洗浄剤につけている。	○	今後も声かけを行い、口腔ケアの徹底に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表を用い、食事量・水分量(水分摂取の困難な方)を記録。利用者の状態を把握している。	○	継続し、一人ひとりの栄養バランスが崩れないよう支援していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	MRSA等(3ヶ月に一回実施)マニュアルや情報誌を利用したり、手洗い・うがい等実施している。食事前には、消毒の徹底している。	○	継続していく。感染症や、病気に関しては勉強会などに出席し、レベルアップをしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は、使用前後の消毒、乾燥を徹底している。食材選びも気をつけている。地域農家の方との、野菜購入の契約をしている。	○	今後も衛生管理、食材の管理に注意していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季の草花を植え、明るい雰囲気を訪れやすくしている。	○	もっと花を増やし、もっと明るくして訪れやすい、雰囲気づくりに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々にあわせ、フローアや廊下を飾ったりしている。	○	利用者一人ひとりが、今の季節を理解できるよう、フローアに飾ったり、生活しやすい環境づくりをしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア、リビングは自由に使用してもらえるように、ソファやテーブルの位置等を工夫している。	○	利用者の意見を意見を聞きながら、必要に応じて工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるタンス等を持参してもらい、写真等も飾ってもらっている。	○	希望を聞き、時々家族や本人と一緒に模様変えをし、気分転換をはかり、落ち着かれる環境づくりに努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度管理や空調管理は、主に職員で行っている。	○	ホームで犬を飼っているため、雨の日など、少々においがする時がある。利用者に不快を与えないよう換気には注意を払っていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。エレベーターも自由に使ってもらっているが、安全には気を配っている。	○	利用者の状態に合わせ、別の場所に手すり等、必要になればその都度対応していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事の配膳や洗濯物干し等、スタッフと一緒にしている。	○	今後も、スタッフと一緒にいながら、利用者の出来ることを見つけていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭があり、畑仕事をしたり、花を作ったり、散歩をしたりと自由に過ごされている。		今後も、散歩や畑仕事へと声かけをしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ホーム内に花壇と畑があり、花見や野菜収穫等を楽しむことができる。
- ・子供110番や、安全パトロール、みまもり隊等のボランティアに登録し活動を始めており、地域の子供達との交流を深めていく。